

テーマ⑭ その他(①～⑬に当てはまらない場合)

ご意見の表題	ご意見の概要
8 気軽に参加できる赤い羽根募金みたいながん募金、作れませんか	電話募金のようなものを作ってみてはどうか。募金テーマは「日本のがん医療をよりよいものにするため」などという漠然としたものではなく、「世界のがん治療情報を早く翻訳し、国民に情報提供するために、人件費がいくら必要です」とか、「緩和医療に対する理解を深めるためのミニドラマ作成に、費用がいくらかかる」などの的を絞ったものにすべき。用途が明確で納得できるものであれば、少なくない国民が参加する用意があるのではないか。
9 「がん対策基本法」にかかる基本方針策定等に向けての要望：細胞診業務の重要性について	「がん対策基本法」における基本方針策定に関して、日本臨床細胞学会理事長として以下の事項につき要望したい。 ①基本方針策定やその施行において、細胞診の意義や重要性について十分考慮すること(がんの早期発見における細胞診の重要性、がんに関する細胞診従事者の育成、がん医療に関わる医療機関における細胞診業務の重要性)。②日本臨床細胞学会を「がん対策基本法」を考える際の関連学会に含めること。③「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」において、細胞診に関する事項を明記すること。
10 電子カルテについて	全国共通の互換性を持った電子カルテが拠点病院に導入されれば、患者中心の医療により近づくと思う。電子カルテの導入に関し、予算を配分してほしい。また、電子カルテの互換性についても考慮してほしい。
11 診療科の壁、地域の差	小児脳腫瘍の治療メニューの決定は脳神経外科医の意向が強く反映されている施設が多いと思う。この腫瘍の治療には、手術に関すること、画像診断、機能の問題については脳神経外科医が、化学療法を主とする治療については小児科医が、診療科の壁をこえ協力する、高次の集学的治療が必要である。現状では、それがうまく機能している病院は実体験上少なく感じる。厚生労働省として、治療薬の使用については専門性の高い腫瘍科医の関与を義務づける、希な小児がん研究に研究資金の予算を組むなどの対策をしてほしい。
12 社会医療法人制度の見直し	社会医療法人制度では、へき地医療や救急医療を実施していることが要件として定められているが、社会的に影響の大きいがん医療への取り組みを要件に加えてはどうか。様々なメリットのある社会医療法人制度との関連付けを明確にすることで、がん医療に対する医療機関の取組強化が図れると考える。
13 がんになっても不安のない安心できる社会をつくることが求められる	患者、家族だけではなく一般健常者からの意見も聞くことのできるシステム、社会環境が必要。
14 早期回復のための家具や生活グッズの院内販売	術後退院する患者は、体力がなく必要なものを買うに行くのも困難である。そこで、家具や生活グッズの病院内での安価販売を提案する。定期健診や体調も悪いとき、ついでに立ち寄ることができる。病院にしかない機能的なベッドなど必要性が高く、高額な商品については、一定の基準をクリアしたものは、国が大口の客として大量に安価で買い取り、それを患者が安く購入できるようにする。そして商品の利用者からのアンケートを義務づけ、そのアンケートで集まった患者や家族・介護者のアイデアを特許登録し、がん患者の「収入」につながるようにさせたい。まずは各がんセンター・特定機能病院等で始めてほしい。

テーマ⑭ その他(①～⑬に当てはまらない場合)

ご意見の表題	ご意見の概要
15 患者と介護者の為に折りたたみ椅子の開発	<p>早期回復のためには寝てはいけい。術後についても、できることならすぐにでも歩くことを勧められる。体力の許す限り起きているために、すわり心地のいい椅子が必要。体のどこかに痛みがあるとき、いすのデザインによって痛みを軽減できることがある。患者が早期社会復帰するために手段として、国がコンペをひらいて、安価で国民に提供できる椅子を開発してほしい。そして商品の利用者からのアンケートを義務づけ、そのアンケートで集まった患者や家族・介護者のアイデアを特許登録し、がん患者の「収入」につながるようにさせたい。まずは各がんセンター・特定機能病院等で始めてほしい。</p>
16 病院を患者が育てるにはどうすべきか	<p>「自分で通える」「自分でできる」状態を長く保つために、少しでも身近で、アクセスの良い場所に「信頼できる病院」があってほしい。病院に信頼が持てるよう、患者が病院を育てるにはどうすべきか。最近では医師に非を咎めるばかりで、医師の育ちやすい環境づくりがおざなりのように感じる。信頼のおける医師と出会うには、患者自身も信頼のおける患者である必要があると思う。非を責めるだけではなく、あたりまえの成功であっても、感謝していく姿勢が大切と思う。病院の「ご意見コーナー」は苦情ばかりである。嬉しいこと、感謝したこともどんどん投書すべき。患者の喜びの声が、医師のやる気につながると思う。</p>
17 がんに関する政策について	<p>今後も今回のような意見募集を定期的にしてほしい。また「追加的治験」、「安全性確認試験」など積極的な改革も高く評価すると同時に、さらなる積極的な改革を期待する。承認審査、未承認薬使用問題検討会議等決定に時間がかかるのであれば、人員補充する、頻繁に開催する等してカバーしてほしい。「追加的治験」、「安全性確認試験」について、実際の状況はよくわからないが、全国どこでもできるだけ多くの薬剤で受けられるようにしてほしい。このように改革を求める場合、行政側は不用意なことではできないから、国民側が強引に要求し責任もかぶるなどして最大限協力しようという意見もある。それについてどう考えるか知りたい。</p>
18 がんに対するマスコミ等の取り扱いについて	<p>自分ががん患者になって思ったことだが、あまりにもマスコミのがんに対する報道の仕方が悲観的である。「がん＝死」「壮絶な闘病生活」のイメージを強く打ち出しすぎだと思う。自分自身もがんになったとき、「すりこみ」されていたこともあり、すぐに命が終わると思ってしまった。現実を知れば、部位によって、ステージによって、治療方法によって、人それぞれだということは分かる。ただ、あまりに過剰なマスコミの報道によって、勘違いしている人がほとんどなのである。言論の自由がある限り報道の規制は難しいと思うが、がんについて一般の方々に広く真実を理解してもらえようような報道を、マスコミ各社に指導してほしい。</p>
19 意見交換会の地方での実施要請	<p>今回のように、国民から広く意見を聞く機会を増やして欲しい。また、意見交換会を東京だけでなく地方でも開催してほしい。</p>
20 研修生による治療について	<p>治療に際して、研修生みたいな方がする時がある。研修生の育成も必要だが、治療については医師がしても研修生がしても同じ料金なのだから、万一失敗したときの補償もしっかりしておいてほしい。</p>
21 こどものがん対策についてももっと意識を	<p>意見交換会の構成員のなかに、こどものがんについて仕事をしたり、精通していると考えられる人が全くいないように思える。日本の病気による死因の第一位はこどもも大人もがんである。がん対策の重要性はこどもも大人も変わらないはず。口ばかり少子化対策などといっているが、教育、福祉、医療、環境いづれについても大人中心で、こどもを軽視する意識があるのではないか。意見交換会で、こどものがんについても実のある議論をしてほしい。</p>

テーマ⑭ その他(①～⑬に当てはまらない場合)

	ご意見の表題	ご意見の概要
22	がんと職業について	上顎がんのがん患者だが、この病気の原因について私なりに思っている。それは、石綿等をつかう職業(保温工)に30年間従事していたことである。これはがんとは関係ないのだろうか。